

ウルグアイ産牛肉の特徴と対日輸出見通し



alicセミナー 2019年11月26日
独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部 石井 清栄

◎ セミナーの構成

- ◆ 1. 基礎情報
- ◆ 2. 牛肉の特徴
- ◆ 3. 輸出動向
- ◆ 4. 対日輸出見通し



アンガス種とヘレフォード種の交雑種

～ウルグアイ産牛肉をめぐる情勢～

【ウルグアイの牛肉とは...】

- ①日本では馴染みが薄いものの、温帯種由来の評価の高い牛肉を生産
- ②牛肉生産は伝統的に盛んで、1865年からコンビーフ等の輸出を開始
- ③生鮮牛肉中心となった現在では、とりわけ欧州で高品質な牛肉として認識



【2011年11月】

ウルグアイ政府から日本政府に対して、ウルグアイ産生鮮牛肉の**輸入再開を要請**
※日本は1998～2000年まで、同国産生鮮牛肉の輸入を解禁していたが、同国で2000年10月に口蹄疫が発生して以降、停止措置を講じていた。

【2016年3月17日～2018年3月22日】

2016年3月17日、食料・農業・農村政策審議会第26回家畜衛生部会において、ウルグアイ産生鮮牛肉の輸入を認めることについて農林水産大臣から**諮問**があり、審議が行われた結果、2018年3月22日、対日輸出解禁について答申が出された。

【2019年2月7日】

農林水産省が、ウルグアイの16施設を輸出施設として認定。**輸出が可能**となった。

1. 基礎情報



ウルグアイの概要

- 首都：モンテビデオ
- 元首：タバレ・ラモン・バスケス・ロサス大統領
- 人口：345万人（2018年）
- 国土面積：17万6000平方キロメートル（日本の約半分）
⇒ 草地面積は、国土の約8割（15万510平方キロメートル）
- GDPに占める農牧畜業の割合：5.6%（同）
- 総輸出額に占める農牧畜業の割合：74.0%（同）
- 政治動向：



2015年3月に誕生した第二次バスケス政権（拡大戦線党：左派政権）は、経済、教育、社会福祉、貧困削減等の分野に引き続き注力する一方、産業振興や道路・港湾のインフラ整備のほか、地方格差是正等に取り組んでいる。

ブラジル、アルゼンチンの大国に挟まれた小国であるがゆえに、堅実なバランス外交を展開。近年は、アジア諸国（特に、中国）との関係の構築・強化を模索している。

- 加盟経済ブロック：南米南部共同市場（メルコスール）

日本との比較

ポイント

- 主要品種は温帯種の**ヘレフォード**や**アンガス種**で、飼養形態は放牧主体
- 肉用牛の飼養頭数は約1131万頭、牛肉生産量は日本の**1.8倍**
- 生産量の**8割以上**を輸出、1人当たり年間牛肉消費量は日本の**8.8倍**

区分	ウルグアイ(2018年)	日本との比較	日本(2018年度)
飼養品種	ヘレフォード種、アンガス種など		黒毛和種、乳用種など
飼養形態	放牧、フィードロット		舎飼い
飼養頭数	1131万2000頭	(4.5倍)	251万4000頭(2018年度)
と畜頭数	234万3925頭	(2.2倍)	105万5968頭
生産量	59万6000トン	(1.8倍)	33万2900トン
輸出量	47万4534トン	(124.8倍)	3801トン
輸入量	1万6177トン	(0.026倍)	61万9686トン
消費量	15万3000トン	(0.11倍)	133万5700トン
1人当たり年間消費量	56.9キログラム	(8.8倍)	6.5キログラム

資料:ウルグアイ食肉協会(INAC)、農牧水産省(MGAP)、米国農務省海外農業局(USDA/FAS)、農林水産省、alic

注1:ウルグアイの生産量、輸出量、輸入量、消費量、1人当たり年間消費量は、枝肉重量換算

2:日本の生産量、輸出量、輸入量、消費量は、部分肉換算の公表値を枝肉重量換算した数値

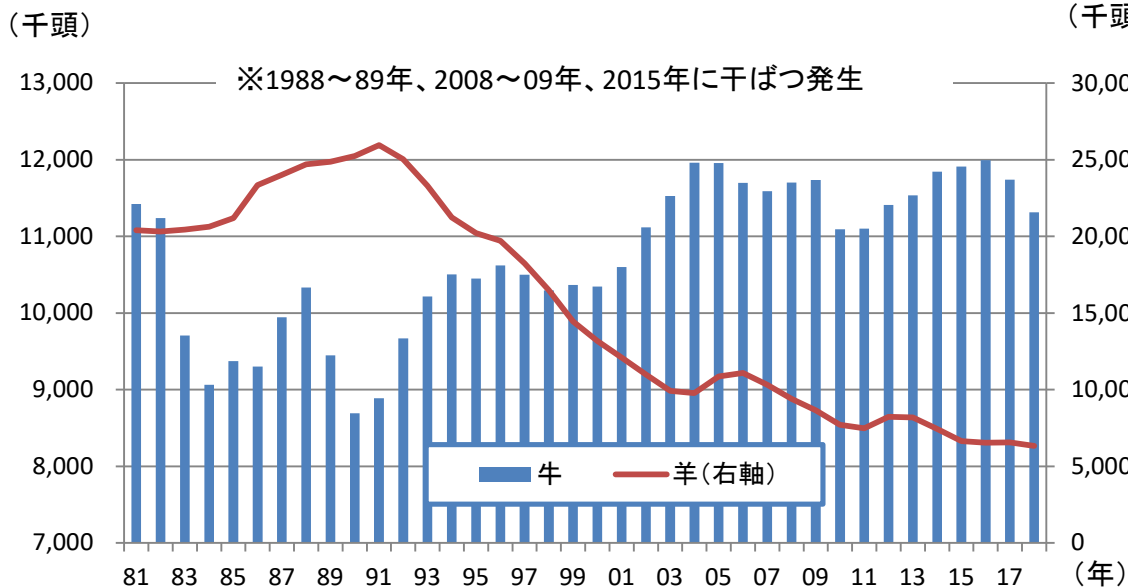
3:日本の1人当たり年間消費量は、枝肉重量換算

飼養頭数の推移

ポイント

- 2018年の肉用牛飼養頭数は、前年比3.6%減の1131万頭
- 同じ牧区で飼養する羊の飼養頭数は、牛群の拡大や盗難リスク等で右肩下がり
- 温暖かつ適度な降雨が見込める温帯気候（まれに、干ばつ有り）

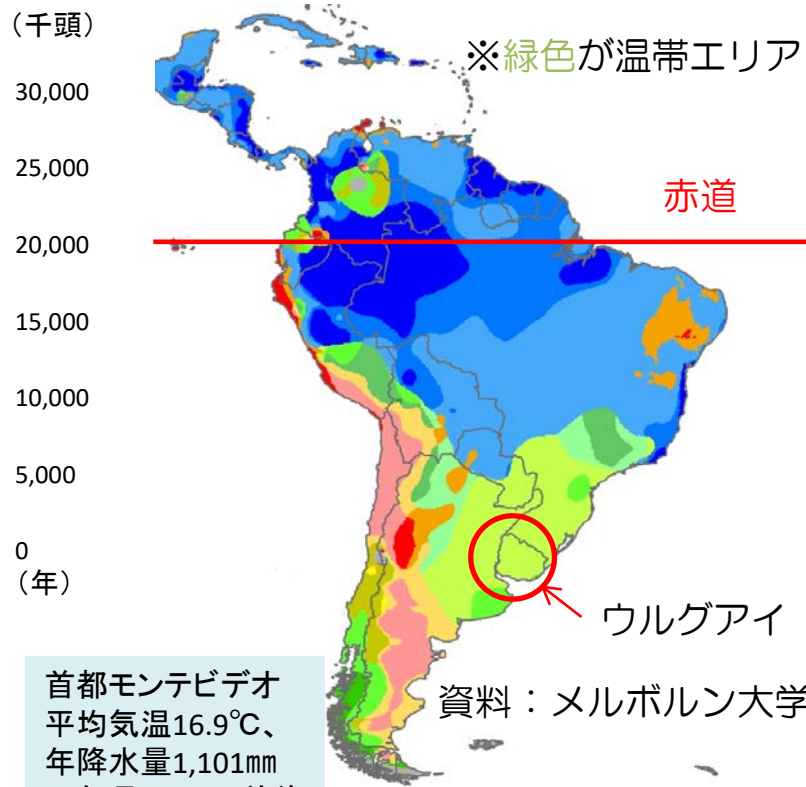
図 肉用牛と羊の飼養頭数の推移



資料：ウルグアイ食肉協会 (INAC)

注：各年6月30日時点

ケッペンの気候区分



行政区分と主な飼養地域

ポイント

- 主要な肉用牛飼養地域は、**地価が安い内陸地域**（タクアレンボ県など）
- 大幅な減少を記録しているのは、トリエンタ・イ・クロス県
- モンテビデオから最も遠いアルティガス県でも、陸路で600km程度（東京～盛岡市または姫路市のもう少し先）

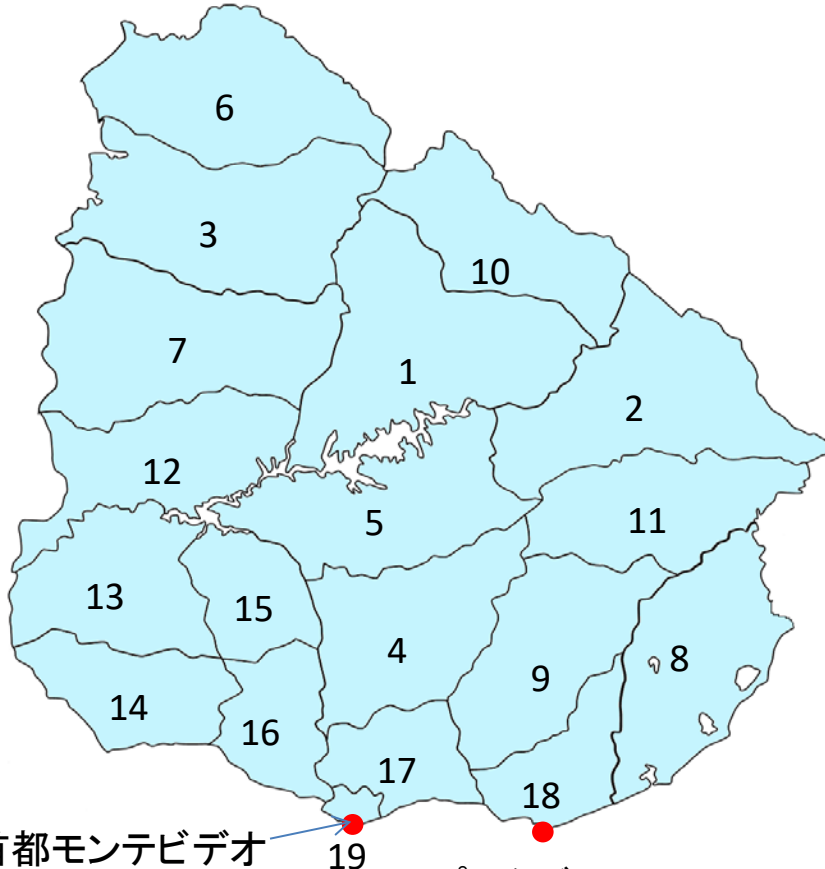
表 県別肉用牛飼養頭数の推移

(千頭)

	17	18	18/17 増減率
1 タクアレンボ県	1,083	1,009	-6.8%
2 セロ・ラルゴ県	974	973	-0.1%
3 サルト県	918	848	-7.6%
4 フロリダ県	888	877	-1.2%
5 ドウラスノ県	861	837	-2.8%
6 アルティガス県	833	788	-5.4%
7 パイサンドウ県	797	753	-5.5%
8 ロチャ県	719	693	-3.6%
9 ラバジェハ県	679	634	-6.6%
10 リベラ県	667	640	-4.0%
11 トリエンタ・イ・トレス県	651	510	-21.7%
12 リオ・ネグロ県	513	480	-6.4%
13 ソリアノ県	478	417	-12.8%
14 コロニア県	410	360	-12.2%
15 フローレス県	368	371	0.8%
16 サン・ホセ県	361	361	0.0%
17 カネロネス県	288	283	-1.7%
18 マルドナド県	250	261	4.4%
19 モンテビデオ県	3	2	-33.3%
合計	11,739	11,468	-2.3%

資料: MGAP「Anuario 2019」

注: 2018年の飼養頭数の多い順



牛肉需給の推移

ポイント

- 2000～2001年にかけて、**口蹄疫**の発生により大幅な減産を記録
- 国内消費は、**成熟**しているため、今後大幅な伸びは見込めない
- 輸出量は長期的には**ペソ安**に伴う価格優位性や米国のBSE発生に伴う**代替需要**により増加、近年は中国向けなどの増加で2018年は過去最高の46万6000トンを記録
- 2019年は11/16現在で前年同期比0.1%増の40万5000トン、うち中国向けは同27.2%増の26万4000トン

表 牛肉生産・輸出上位国(2018年)

		(千トン)	
		牛肉生産量	牛肉輸出量
1位	米国	12,256	ブラジル 2,083
2位	ブラジル	9,900	豪州 1,662
3位	EU	8,003	インド 1,556
4位	中国	6,440	米国 1,028
5位	インド	4,265	NZ 633
6位	アルゼンチン	3,050	カナダ 502
7位	豪州	2,306	ウルグアイ 466
8位	メキシコ	1,980	パラグアイ 365
9位	パキスタン	1,800	EU 351
10位	ロシア	1,357	メキシコ 310
11位	カナダ	1,265	
17位前後	ウルグアイ	565	
	日本	481	

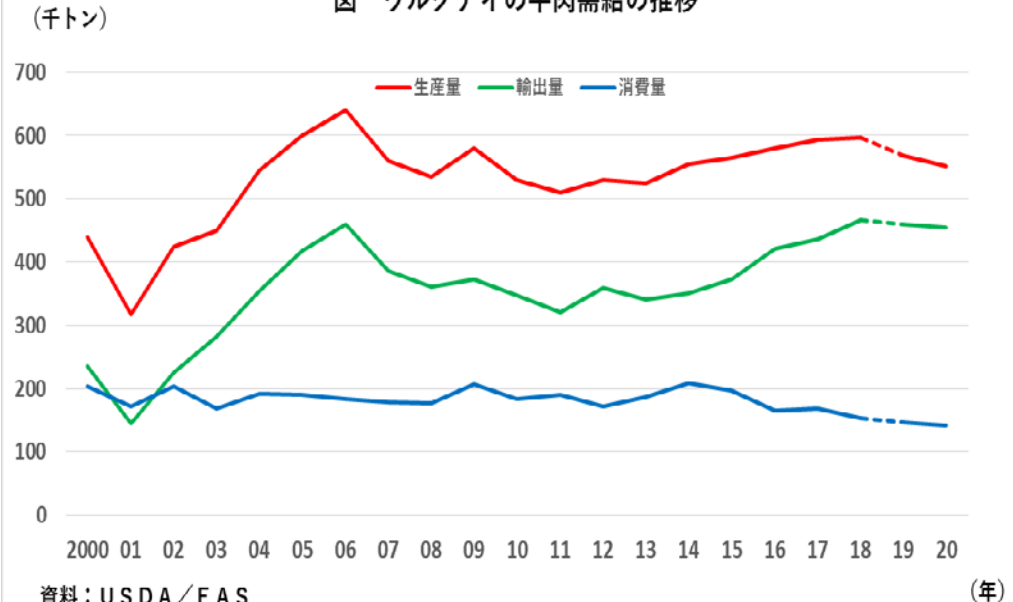
資料:USDA/FAS

注 1:枝肉重量換算

2:NZはニュージーランド

3:インドは水牛肉を含む。

図 ウルグアイの牛肉需給の推移

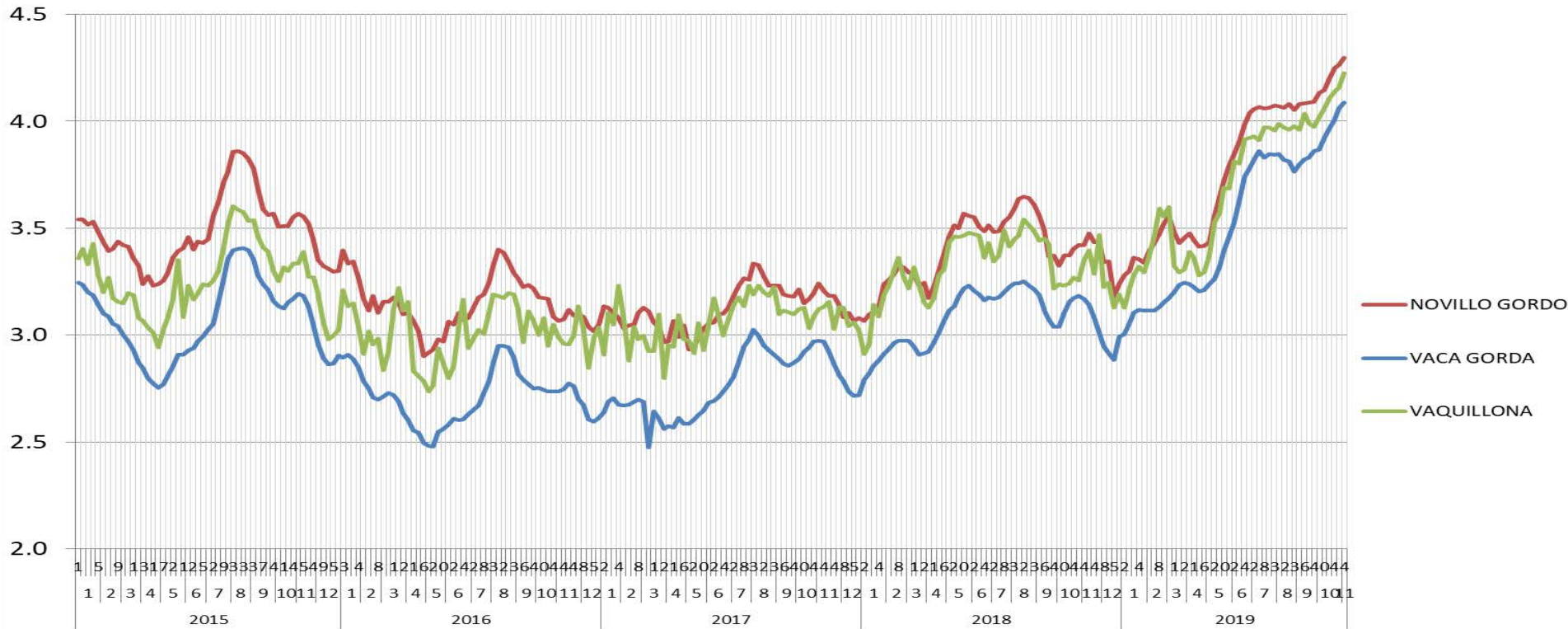


肉用牛生産者出荷価格の推移

ポイント

- 中国向け輸出やトルコ向け生体牛輸出の増加などにより、出荷価格が高騰
→ パッカーの収益を圧迫

(ドル/キログラム)



— 去勢牛 — 経産牛 — 未經産牛

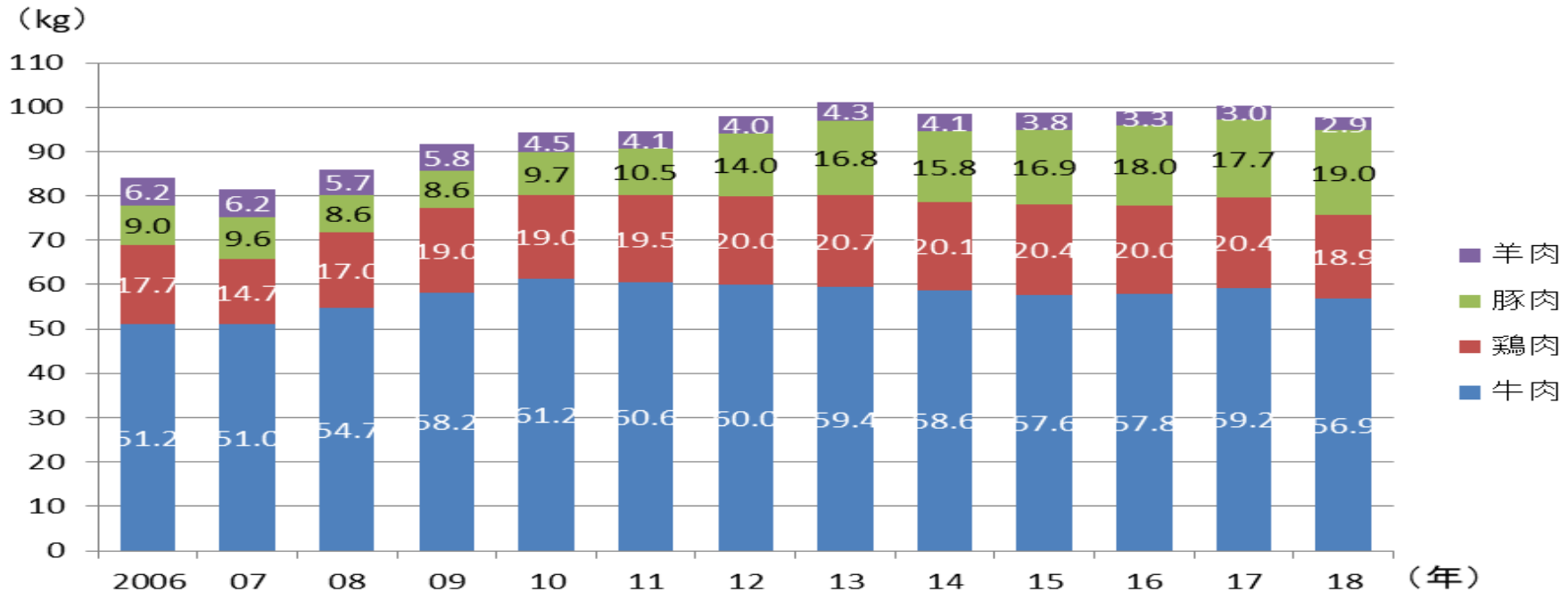
資料: INAC
注: 枝肉重量ベース

食肉消費の推移

ポイント

- ウルグアイの1人当たり牛肉消費量は、**世界最高水準**
- しかし、2011年以降は、**牛肉価格の上昇**かつ**健康志向**の高まりを受けて、豚肉や鶏肉に押され減少傾向

図 1人当たり食肉消費量の推移



資料: INAC

注: 牛肉、豚肉、羊肉は枝肉重量換算。鶏肉は可食処理換算

牛肉消費事情

～薪火焼～

① *Ojo de Bife* (リブアイ)



③ *Molleja* (胸腺)



② *Asado* (ショートリブ)



④ *Chinchulin* (小腸)

ステーキの焼き具合のオーダーについて

◎レア



⇒ **Muy Jugosa**
(ムイ フゴッソ)

◎ミディアム



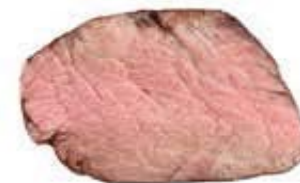
⇒ **A punto**
(ア プント)

◎ミディアムレア



⇒ **Jugosa**
(フゴッソ)

◎ウェルダン



⇒ **Cocida**
(コシーダ)



薪火焼き風景

2. 牛肉の特徴



特徴1：ナチュラルビーフ

ポイント

- ① 畜産副産物(飼料)不使用
- ② 成長ホルモン未使用
→ 主要輸出国であったEU向けに対応することから、1980年代までに、畜産副産物、成長ホルモンおよび増体目的の飼料添加物の使用を法律で禁止
- ③ 「自然」に近い形で飼養している牧草肥育
→ 牧草肥育の割合85%、穀物肥育の割合15%
「自然に近い形で飼養された赤身肉」



○ 「NEVER EVER 3」

米国農務省(USDA)の認証

- 上記①および②の順守と併せて、抗生物質の使用も禁止、使用した場合には、使用していない牛群と分けて管理



特徴2：トレーサビリティ制度

ポイント

- 2006年7月12日制定のトレーサビリティ法の下、**全ての牛を対象**としたトレーサビリティ制度を整備、**個体単位**で国家家畜情報システム(SNIC)に登録
- 政府が無料で配布する**個体番号**が記録された耳標とICタグにより、**出生時期**、と畜までの**移動履歴**、所有者の**変更**などの情報を把握することが可能
- パッカー搬入後は、INACの食肉産業情報電子システム(SEIIC)の下、製品データが登録され、輸出される部分肉から**個体**までの**トレースバック**が可能



移動に際して個体番号を読み取る生産者



SNIGの個体識別番号はUY(858) + 9桁

肉用牛農家の経営形態

ポイント

- 日本と同様に、繁殖、肥育、一貫経営の3タイプ
- 育成段階は、繁殖または一貫経営が担うイメージ
- 一貫経営の戸数割合は、全体の10.6%
- 肥育もと牛は、①荷受業者主催のセリへ出荷、②肥育農家へ直接出荷

牧畜農家の戸数および飼養面積

	戸数		飼養面積		1戸当たり 飼養面積(ha)
	(戸)	割合	(千ha)	割合	
繁殖経営(注2)	25,385	52.2%	8,206	54.7%	323
一貫経営(注3)	5,171	10.6%	2,984	19.9%	577
肥育経営(注4)	4,789	9.8%	2,224	14.8%	464
純粋な繁殖経営(注5)	2,019	4.2%	271	1.8%	134
羊専業	1,503	3.1%	151	1.0%	100
その他	9,783	20.1%	1,162	7.7%	119
合計	48,650	100%	15,003	100%	308

資料:MGAP「Anuario 2019」

注 1:2018年6月時点

- 2:繁殖雌牛に対する2歳以上の去勢牛の比が0.2未満で、去勢牛を一部含む。
- 3:繁殖雌牛に対する2歳以上の去勢牛の比が0.2以上2未満
- 4:繁殖雌牛に対する2歳以上の去勢牛の比が2以上で、去勢牛を多く含む。
- 5:去勢牛を飼養していない。

肉用牛農家(放牧)の規模の目安

大規模

- 年間出荷頭数500頭以上

中規模

- 同200頭以上500頭未満

小規模

- 同200頭未満

資料:INAC

肉用牛（去勢牛）の一般的な飼養スケジュール

【子牛期】

【育成期】

【肥育期】

※子牛期～育成期はいずれの飼養管理でも放牧

離乳の目安
5～6カ月齢

※150kg前後まで育成

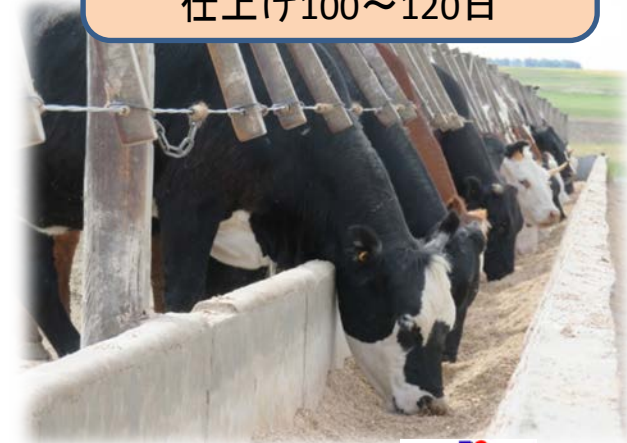
育成期の目安
18～24カ月齢まで

※350kg前後まで育成

【放牧:と畜頭数の約85%】
肥育期間の目安
30～36カ月齢



【フィードロット:同約15%】
肥育期間の目安
仕上げ100～120日



資料: 農家での聞き取りなどを基に機構作成

注 1: 数字は目安で、肥育牛の出荷体重は500キログラム前後

注 2: 近年、EUの穀物肥育向け需要増加により、出荷月齢が低下傾向

牧草肥育の概要(一事例)

- 交配時期は10～12月（夏）、分娩は8～10月（春）が理想とされる。
- 繁殖雌牛の供用（分娩）回数は、5～6産が平均的
- 未経産牛や種付け前の繁殖雌牛は、条件が良い草地で飼養される傾向
- 生体牛1キログラム当たりのコストは1.1～1.2米ドル
- 出荷価格(19年5月訪問時点)
 - パッカー向け：1.75ドル/キロ×500キロ=875米ドル
 - フィードロット向け：2ドル/キロ×360キロ=720米ドル



フロリダ県の肉用牛農家(地域畜産者連盟のメンバー)



自然草地のシロクローバやオーチャードグラスと牛

穀物肥育(フィードロット)の概要

フィードロット協会 (AUPCIN) によると…

- フィードロット農家は、**130者** (うち会員は22者)
- 2015年のフィードロット由来のと畜頭数は、25～30万頭 (会員合計4～6万頭)
- パッカーのニーズに應えるかたちで、結びついている場合が多い。
- 去勢牛：未経産牛の割合は、**8：2**
- フィードロットにおける飼料原料の3～4割は輸入に頼る**高コスト型**
- フィードロット由来の牛肉の約9割がEUの**Quota 481向け** (スライド24) で、残りは他国や国内にも仕向けられている。
- 出荷した場合の利益は、50米ドル/頭程度 ⇒**回転数重視**
- AUPCINは、会員の生産計画に基づいて、パッカーとの間で年4回程度、3～6カ月先までの出荷交渉を担当

フィードロット経営体の規模の定義

小規模	年間出荷頭数500頭未満
中規模	同500頭以上～1,500頭未満
大規模	同1,500頭以上

※ フィードロットの1経営体当たりの平均年間出荷頭数は1,500頭程度

※ 大規模は、平均年間出荷頭数1万5000頭規模



フィードロット飼養風景

3. 輸出動向

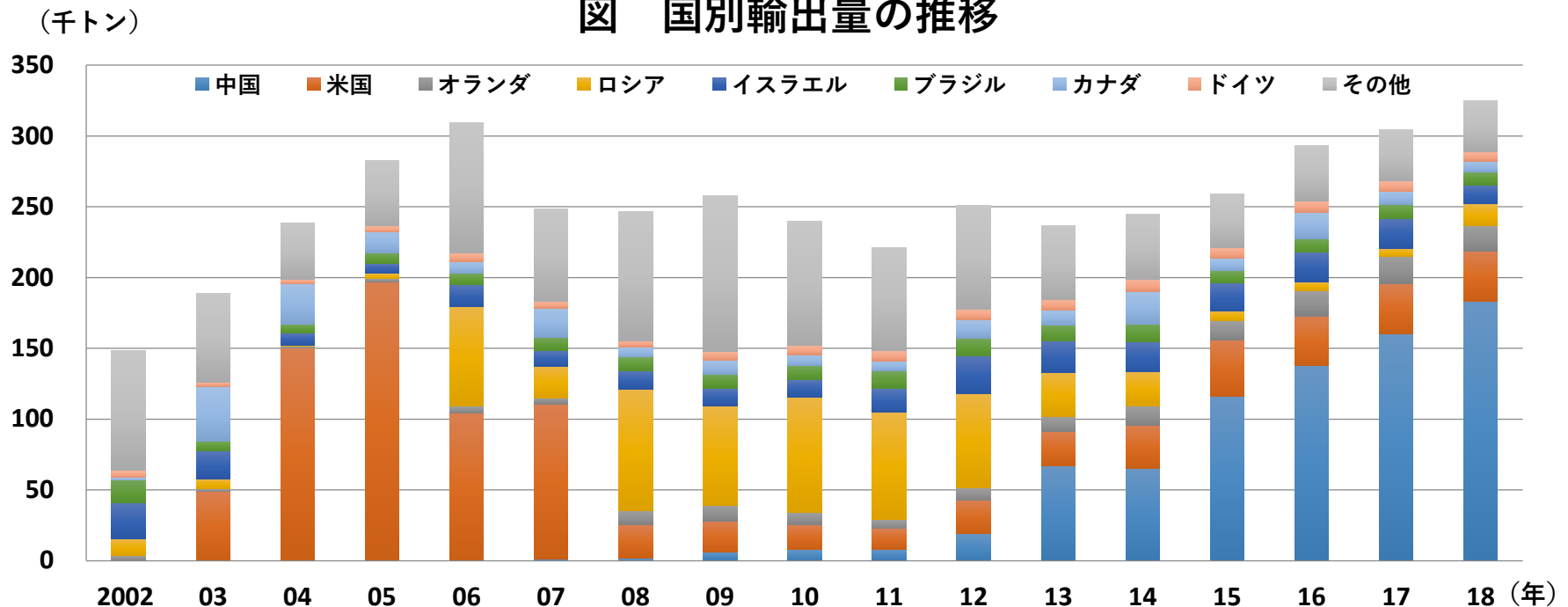


牛肉輸出量の推移

ポイント

- 2000年代初頭は、**ペソ安**の進展や米国のBSE発生などに伴う**代替需要**で拡大
- 2007年以降、キャトルサイクルによる減産や、2008年9月に端を発した世界金融危機による輸出需要の冷え込みで伸び悩むも、近年また増加基調で推移
- 輸出量は2013年以降、右肩上がり
- 既存の輸出先への輸出を堅調に推移させつつ、**中国向けが急増**

図 国別輸出量の推移



資料:「Global Trade Atlas」

2017年および2018年の輸出货量

区分	2017年			2018年			前年比(増減率)		
	輸出货量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出货量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出货量	輸出額	単価
中国	160,156	606,438	3,787	183,177	725,157	3,959	14.4%	19.6%	4.5%
米国	35,258	190,012	5,389	35,133	193,792	5,516	▲ 0.4%	2.0%	2.4%
オランダ	19,393	170,428	8,788	18,261	168,418	9,223	▲ 5.8%	▲ 1.2%	4.9%
ロシア	5,856	16,238	2,773	15,261	55,516	3,638	160.6%	241.9%	31.2%
イスラエル	20,967	118,276	5,641	13,649	84,399	6,184	▲ 34.9%	▲ 28.6%	9.6%
ブラジル	9,781	67,030	6,853	8,843	63,518	7,183	▲ 9.6%	▲ 5.2%	4.8%
ドイツ	7,361	72,311	9,824	6,461	62,694	9,703	▲ 12.2%	▲ 13.3%	▲ 1.2%
その他	45,550	260,249	5,713	43,993	267,894	6,089	▲ 3.4%	2.9%	6.6%
合計	304,322	1,500,982	4,932	324,778	1,621,389	4,992	6.7%	8.0%	1.2%

資料: ウルグアイ中央銀行

注 1: HSコード0201、0202の合計

2: 製品重量ベース

輸出先：伝統的な市場のEU

ポイント

- EU向けは、**ヒルトン枠**と、高級牛肉無税枠（**Quota 481**）が主
- Quota 481の4万5000トンの枠のうち、ウルグアイの実績は1.3万トン程度

2018/19年度	対象国	枠内数量	税率	主な要件
ヒルトン枠 年度:7月～翌6月 EU規則593/2013 ※2016年12月 16日改訂版	アルゼンチン	29,500	従価税20% (従量税なし)	・離乳後放牧肥育 ・INACの格付けで、 歩留まりが「I、N、 A」かつ、脂肪厚が 「1、2、3」であること
	ブラジル	10,000		
	ウルグアイ	6,376		
	パラグアイ	1,000		
	米国／カナダ	11,500		
	豪州	7,150		
	NZ	1,300		
	計	66,826		
高級牛肉 無税枠 (Quota 481) 年度:7月～翌6月 EU規則481/2012	アルゼンチン	合計45,000 各四半期 11,250	無税	・穀物が100日以上 給与されていること ・30カ月未満の牛 由来であること
	米国			
	カナダ			
	豪州			
	NZ			
ウルグアイ				

資料: 欧州委員会

注 1: 生鮮牛肉の両枠外の一般税率は、12.8% + 303.4ユーロ/100キログラム

注 2: ヒルトン枠の主な要件は、対象国ごとに内容が異なっており、ウルグアイの要件を記載

ヒルトン枠消化状況

対象国	枠内数量	17/18年度		18/19年度		19/20年度	
		消化量 (トン)	消化率 (%)	消化量 (トン)	消化率 (%)	消化量 (トン)	消化率 (%)
アルゼンチン	29,500	28,091.29	95.22%	29,491.35	99.97%	13,669.95	46.34%
豪州	7,150	5,333.48	74.59%	4,942.02	69.12%	1,701.59	23.80%
ウルグアイ	6,376	6,363.24	99.80%	6,363.76	99.81%	1,908.78	29.94%
ブラジル	10,000	5,057.27	50.57%	4,147.19	41.47%	1,660.47	16.60%
ニュージーランド	1,300	1,122.25	86.33%	980.60	75.43%	430.72	33.13%
カナダ/米国	11,500	2,351.37	20.45%	3,883.04	33.77%	1,253.81	10.90%
パラグアイ	1,000	962.21	96.22%	935.41	93.54%	329.97	33.00%

資料：欧州委員会

注 1：年度は7月～翌6月

2：19/20年度は10月31日現在

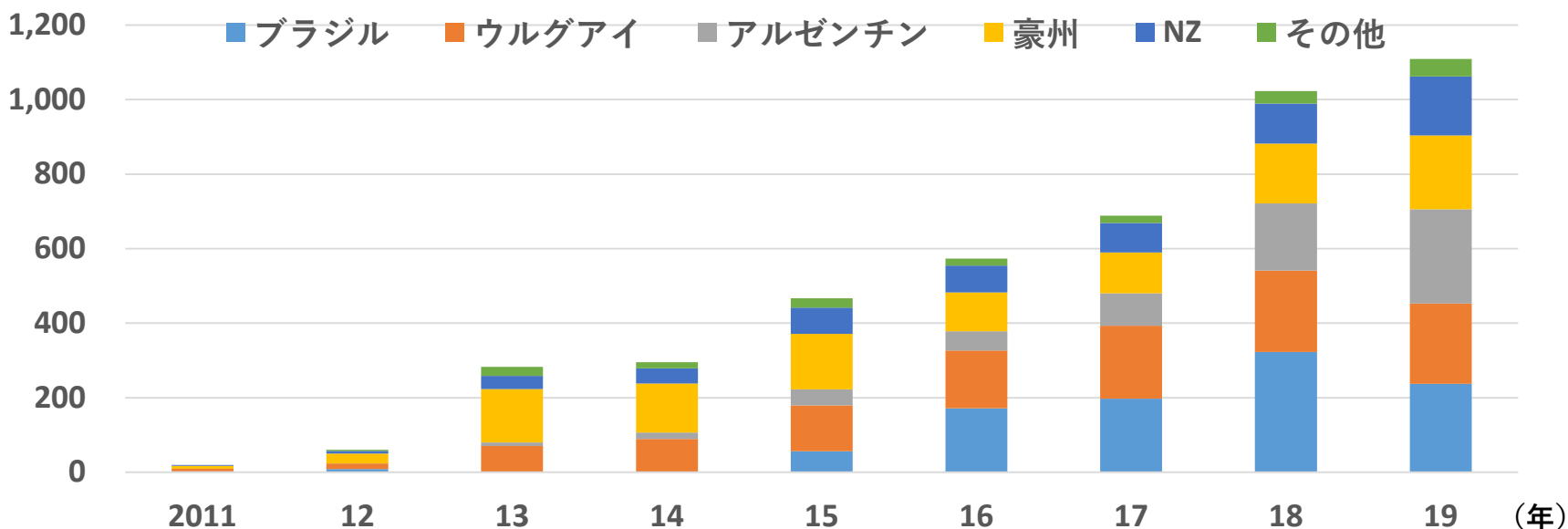
輸出先：加速的に伸びる中国向け

ポイント

- 1997年4月21日に解禁し、2011年以降、旺盛な需要に応え年々大幅増
- 輸出条件は、**冷凍牛肉**や内臓（消化器官は含まない）
- 中国向け輸出認定施設は、**20カ所**
- 2019年9月までの輸入量は、前年を既に上回る110万9000トン
うちウルグアイ産は20%以上を占める23万7000トン

(千トン)

図 中国の国別冷凍牛肉輸入量の推移



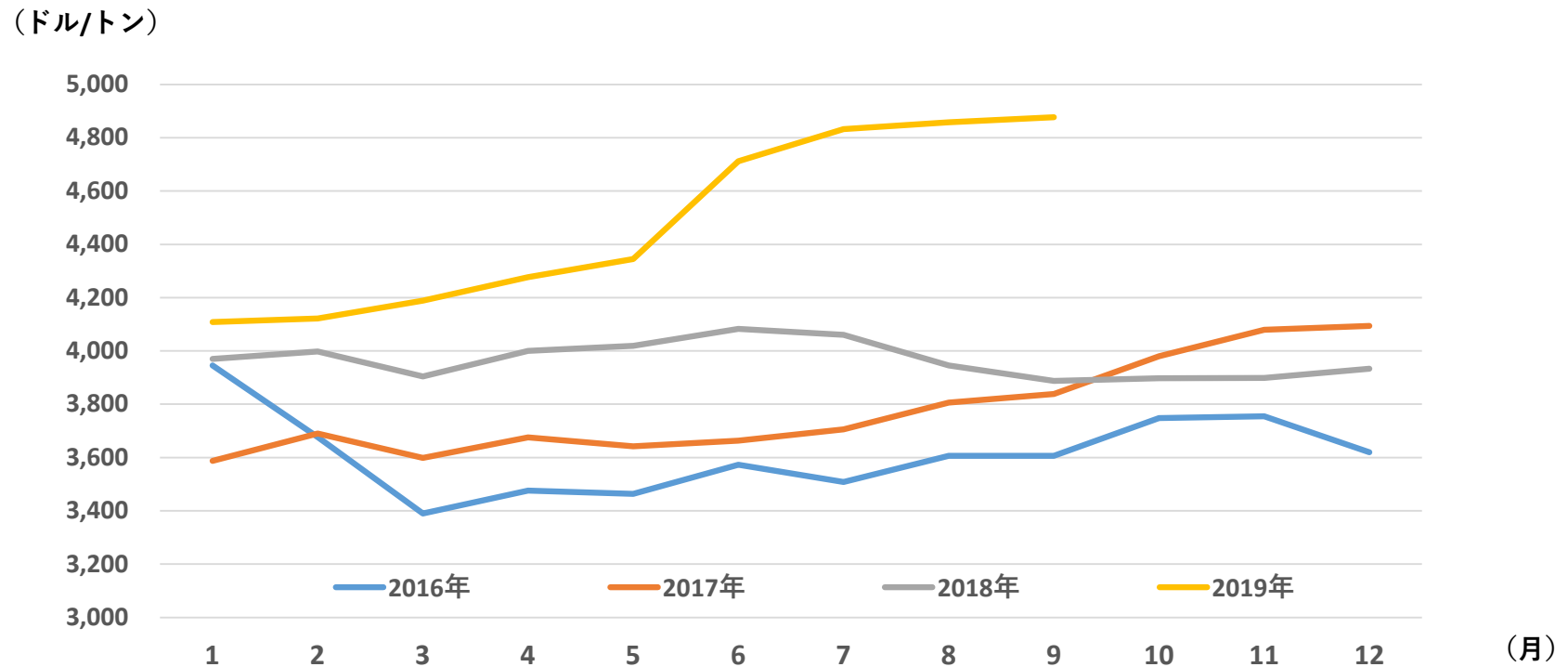
資料:「Global Trade Atlas」

注:2019年は1月～9月

中国向け冷凍牛肉輸出単価の推移

ポイント

- 2019年に入ってから、上昇して推移
- 2019年9月は、前年同月比25.5%高の1トン当たり4877ドル



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード：0202（冷凍牛肉）

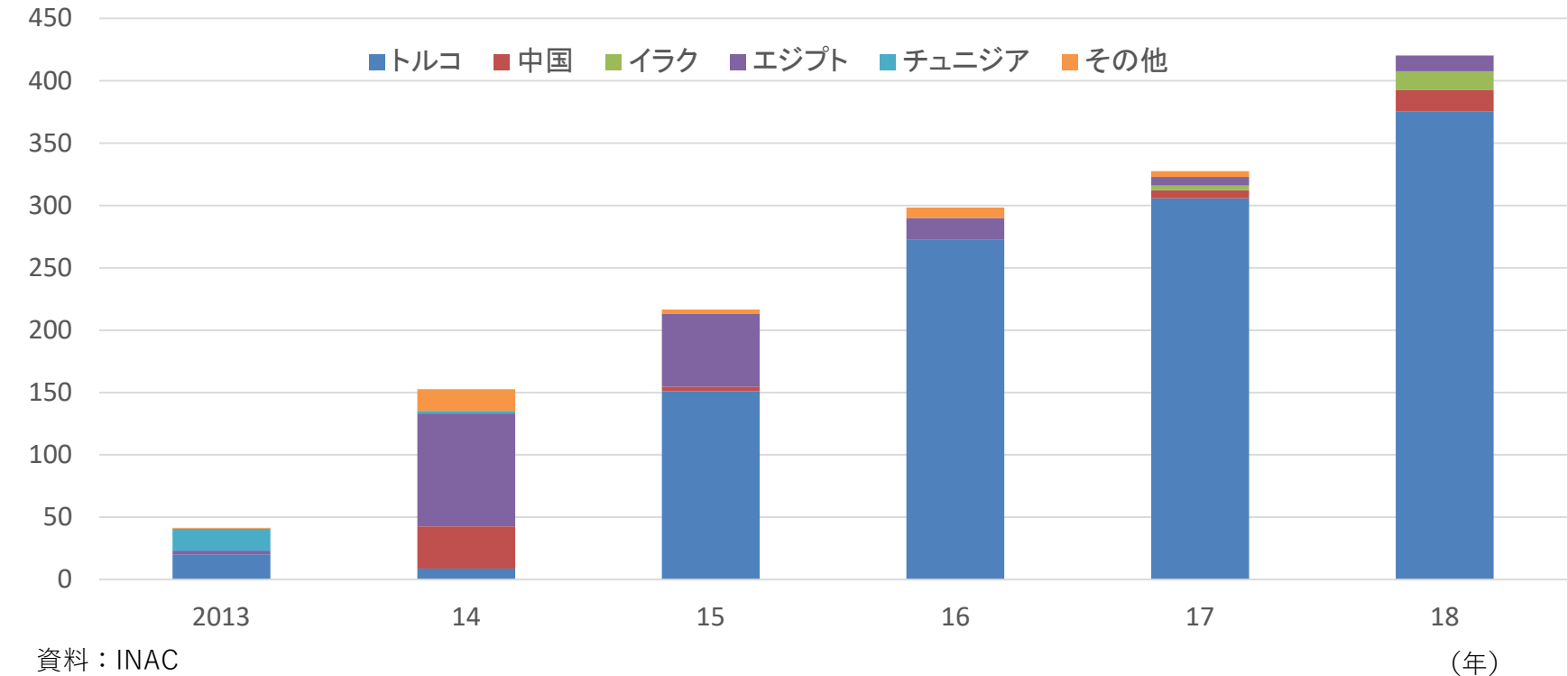
生体牛輸出の増加

ポイント

- 2018年は、と畜頭数の約2割に相当する生体牛を輸出
- その9割以上がトルコ向け

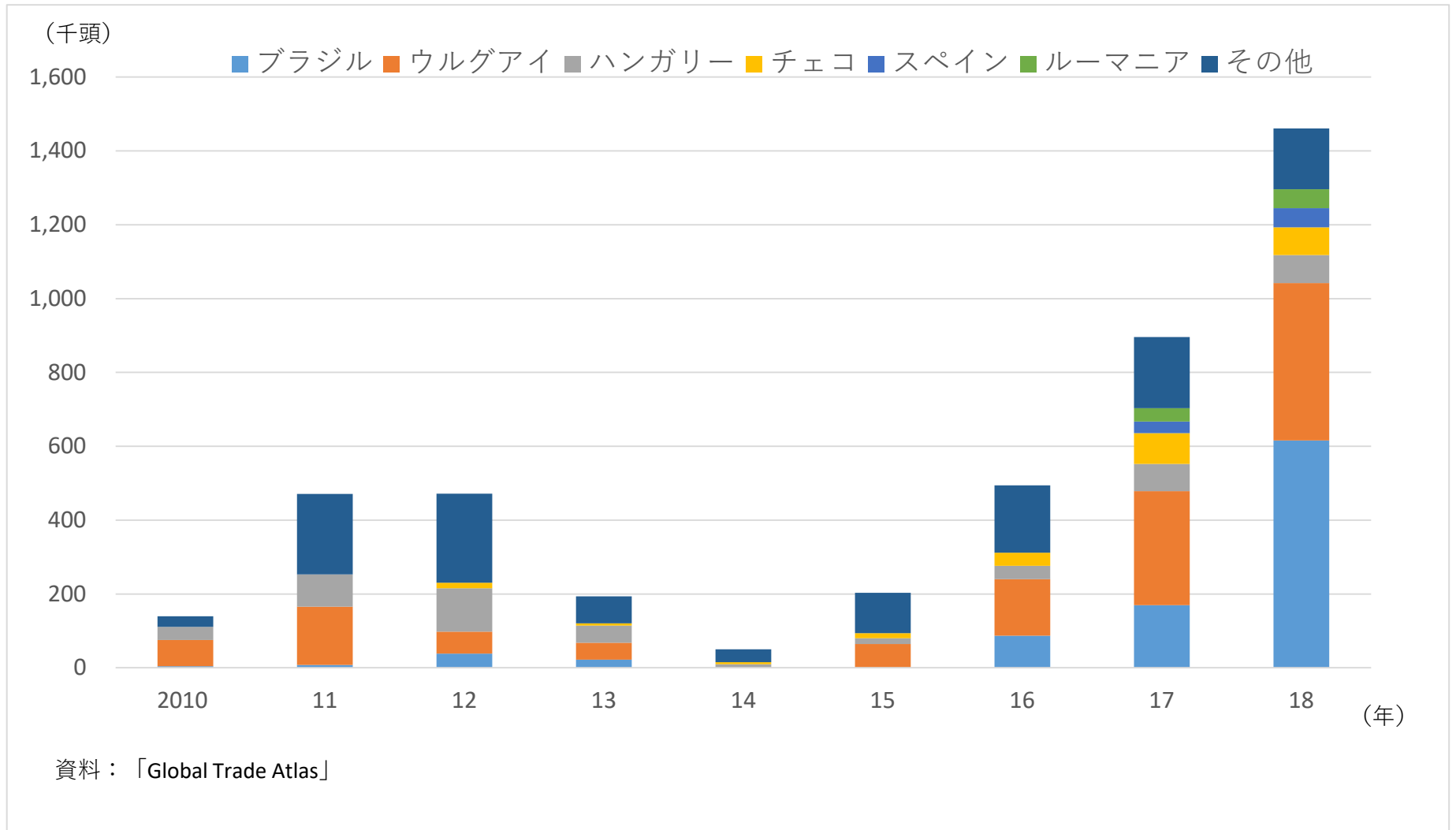
(千頭)

生体牛輸出の推移



資料：INAC

トルコにおける生体牛輸入の推移

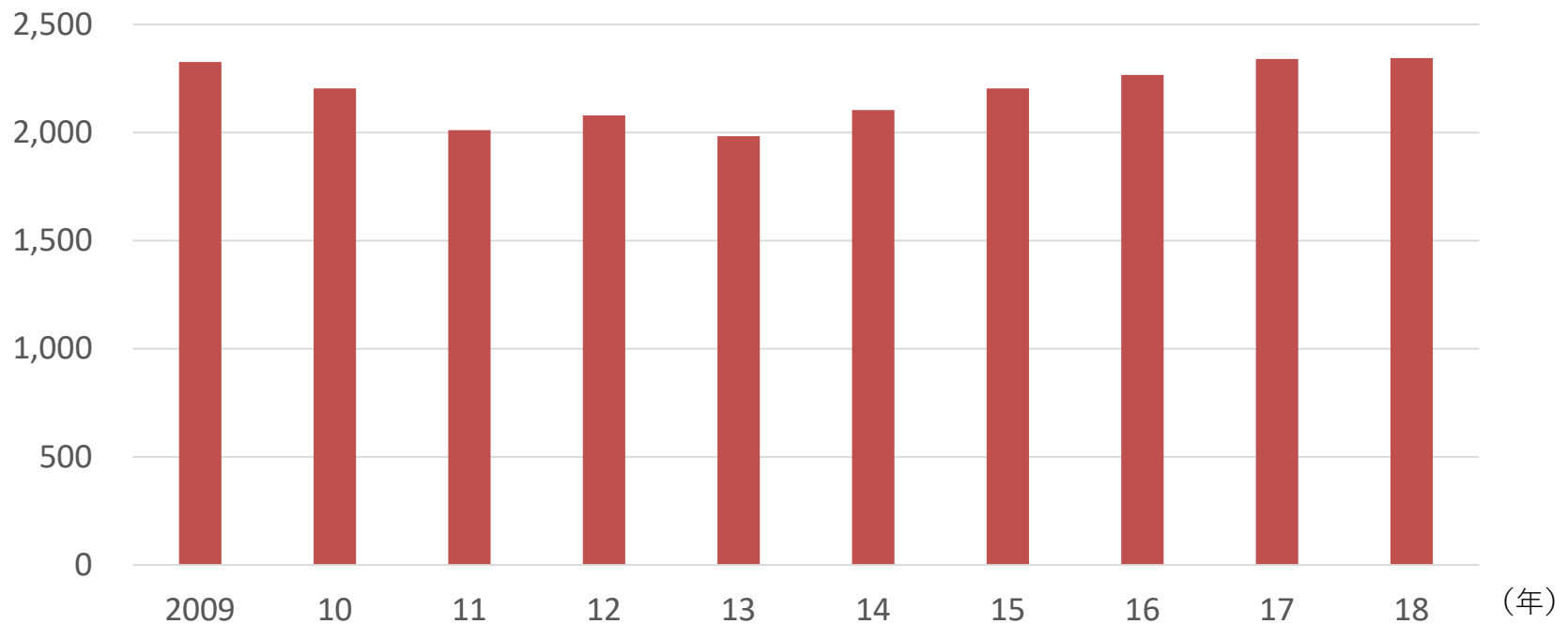


と畜頭数の推移

ポイント

- 2019年は減少傾向で推移し、11/16日現在で前年同期比5.9%減の195万7735頭

(単位:千頭)



資料:INAC

4. 対日輸出見通し



対日輸出：輸出認定施設

ポイント

- 日本向け輸出認定施設は、**16カ所**（2019年2月時点）
- 国内資本はもちろんのこと、ブラジルや日本なども参入している

牛肉輸出施設一覧

施設番号	施設名	資本	中国向け (20カ所)	ロシア向け (23カ所)	EU向け (22カ所)	米国向け (22カ所)	日本向け (16カ所)
2	ESTABLECIMIENTOS COLONIA S.A.	ブラジル (Marfrig)	○	○	○	○	○
3	FRIGORÍFICO MATADERO CARRASCO S.A.	ブラジル (Minerva)	○	○	○	○	○
7	FRIGORÍFICO PUL - PULSA S.A.	ブラジル (Minerva)	○	○	○	○	○
8	FRIGORÍFICO CANELONES S.A.	ブラジル (Marfrig)	○	○	○	○	○
12	FRIGORÍFICO TACUAREMBÓ S.A.	ブラジル (Marfrig)	○	○	○	○	○
14	FRIGORÍFICO DURAZNO - Frigocerro S.A.	ウルグアイ	○	○	○	○	-
22	MATADERO ROSARIO - Rondatel S.A.	中国 (Foresun)	○	○	○	○	-
26	FRIGOYI - BILACOR S.A.	ウルグアイ	○	○	○	○	○
52	FRIGORÍFICO SCHNECK - Suc. Carlos Schneck S.A.	ウルグアイ	○	○	○	○	-
55	INALER S.A.	ブラジル (Marfrig)	○	○	○	○	○
58	FRIGASA - Frigorífico Casa Blanca S.A.	ウルグアイ	○	○	○	○	-
91	FRIGORÍFICO LA TRINIDAD - Oferan s.a.	ウルグアイ	-	○	-	-	-
85	FRIGORÍFICO SARUBBI - Sirsil S.A.	ウルグアイ	○	○	○	○	○
104	FRIGORÍFICO LAS MORAS - Chiadel S.A.	ウルグアイ	○	○	○	○	-
150	SOLÍS MEAT URUGUAY - Ersinal S.A.	ウルグアイ	○	○	○	○	○
224	LORSINAL S.A.	中国 (Foresun)	○	○	○	○	○
245	FRIGORÍFICO COPAYAN S.A.	ウルグアイ	-	○	○	○	○
310	BREEDERS & PACKERS URUGUAY S.A.	日本	○	○	○	○	○
344	FRIGORÍFICO SAN JACINTO - Nirea S.A.	アルゼンチン	○	○	○	○	○
365	FRIGORÍFICO FLORIDA - CLADEMAR S.A.	ウルグアイ	-	○	○	○	-
379	FRIGORÍFICO LAS PIEDRAS S.A.	ウルグアイ	○	○	○	○	○
394	FRIGORÍFICO LA CABALLADA - Cledinor S.A.	ブラジル (Marfrig)	○	○	○	○	○
439	FRIGORÍFICO MATADERO PANDO - Ontilcor S.A.	ウルグアイ	○	○	○	○	○

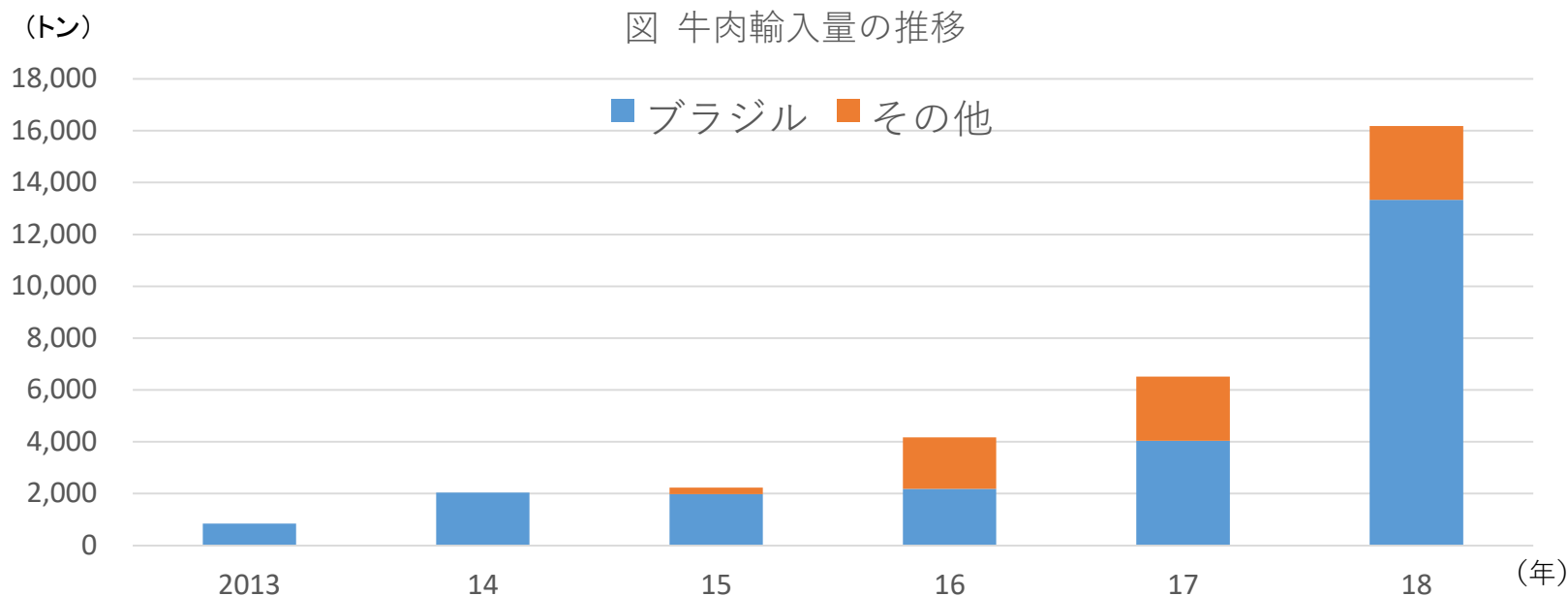
資料: INAC 「EMPRESAS EXPORTADORAS DEL SECTOR CÁRNICO (2019年5月10日版)」

農林水産省動物検疫所

対日輸出：ウルグアイ国内の課題

ポイント

- 生体牛輸出の増加に伴うと畜頭数の減少
→ ブラジルなどからの牛肉輸入量の増加、2019年は9月までで1万8000トン
- 草地面積が近年、ほぼ横ばい(約1500万ヘクタール)
- 繁殖部門の成績の低さ(受胎率：70%強、ほとんどが自然交配)
- 出荷価格の高騰、高い加工コスト、自由貿易協定の動向



資料:「Global Trade Atlas」
注:HSコード:0201、0202

ポイント

- ウルグアイ産で需要のある主な部位は、冷蔵のリブローズやサーロインなどの高級部位に加え、トリミングなどの冷凍の低級部位と推測
- 健康志向が高まっている昨今、赤身比率が高いので、ニーズはあると思料（一部の居酒屋やレストランを中心に既に取引開始）
- 低級部位に関しては、「豪州産との勝負になるが、まずは価格と品質のテストを行っている段階」



ウルグアイ産牛肉と豪州産牛肉の価格比較

○ 冷蔵

(トン、千円、円/キログラム)

		ロイン			かた、うで及びもも			ばら			その他のもの		
		HS0201.30.010			HS0201.30.020			HS0201.30.030			HS0202.30.090		
		輸入量	輸入金額	平均価格	輸入量	輸入金額	平均価格	輸入量	輸入金額	平均価格	輸入量	輸入金額	平均価格
ウルグアイ産	2019年	425.8	502,742	1,180.6	129.5	81,660.0	630.5	0.12	203	1,765.2			
豪州産	2019年	16,280.5	24,521,331	1,506.2	54,832	39,807,888	726.0	20,363	13,760,073	675.7	2,325.6	1,382,475	594.5
アルゼンチン産	2019年	0.25	539	2,156.0									

資料:財務省「貿易統計」

注1:その他のものは、トリミングを含む。

2:2019年は2月から9月までの合計

○ 冷凍

(トン、千円、円/キログラム)

		ロイン			かた、うで及びもも			ばら			その他のもの		
		HS0202.30.010			HS0202.30.020			HS0202.30.030			HS0202.30.090		
		輸入量	輸入金額	平均価格	輸入量	輸入金額	平均価格	輸入量	輸入金額	平均価格	輸入量	輸入金額	平均価格
ウルグアイ産	1998年	19.2		563.9	71.0		282.7	0.3	843.5	143.5		266.0	
	1999年	601.0		379.4	387.5		214.6	3.2	225.4	428.0		191.0	
	2000年	2,194.7		453.9	2,707.0		238.0	27.8	195.2	1,951.7		195.6	
	2019年	25.4	19,355	761.0	34.7	22,964	662.6	9.1	5,642	622.3	61.9	30,997	500.9
豪州産	1998年	7,913.6		360.5	23,344.5		271.2	8,553.7	208.8	89,832.8		207.3	
	1999年	8,671.9		333.6	20,466.4		241.8	10,470.7	189.1	81,347.4		174.6	
	2000年	6,189.2		365.2	20,526.5		230.9	11,549.1	192.6	90,818.1		181.0	
	2019年	2,902.5	1,890,081	651.2	18,298.0	10,942,765	598.0	15,766.1	7,873,946	499.4	89,150.3	36,603,155	410.6
アルゼンチン産	2019年	10.0	18,499	1,846.2	12.5	6,621	531.4	6.9	3,546	513.9			

資料:財務省「貿易統計」

注1:その他のものは、トリミングを含む。

2:2019年は2月から9月までの合計

まとめ

1 限られた輸出余力

- 国土面積の狭さ
- 生体牛輸出増加によると畜頭数減
- 輸入品による国内消費への代替
- 中国向けへの対応

2 限られた用途

- 現地パッカー：積極的に冷蔵のリブローズやサーロインなどの高級部位を輸出したい意向
- ただし、中国が低級部位のパーツを非常に高い単価で買付け、EU市場をめぐるアルゼンチンなどとの競合の激化
 - 高級部位を仕向けざるを得ない事情

3 豪州産との競合

- 価格面：豪州産とあまり変わらないとの声が多数
 - 統計的に見てもウルグアイ産牛肉と豪州産牛肉の輸入単価に絶対的な価格差はなし、しかし、数量面において圧倒的な差、また、TPPによる関税の優位性

⇒ ウルグアイ産牛肉の対日輸出見通し
「Natural Beef」であることや、信頼性の高いトレーサビリティシステムなどが評価された、(小規模でも)特定の需要に応えた市場で輸出の見通し

ご清聴ありがとうございました。

今回の情報は「畜産の情報」2017年3月号および2019年9月号に掲載しております。

※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回（5日、25日）、最新の情報を配信しています。

メールマガジンの配信を希望される方は、機構ホームページ（<https://www.alic.go.jp>）の「メールマガジン登録」からご登録ください。

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。